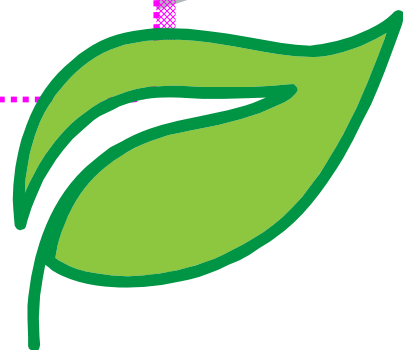


地域連携パス

わたしのカルテ

〇〇病院



〇〇病院〇〇科

担当医：

電話：

あなたのお名前

.....

かかりつけ医

.....

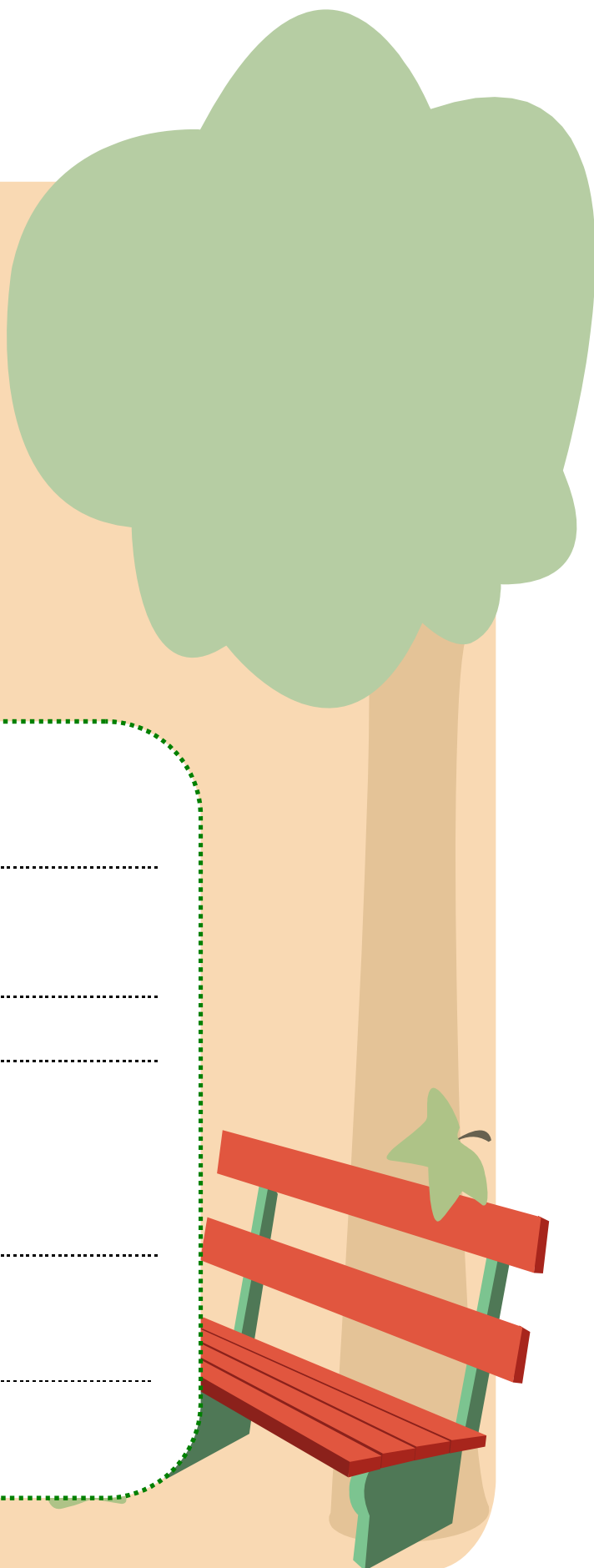
電話：.....

調剤薬局

.....

緊急時連絡先

.....



はじめに



「地域連携クリティカルパス」とは、地域のかかりつけ医と計画策定病院*¹)の医師が協力して治療にあたるための治療計画表です。この治療計画表を活用することにより、安心して質の高い医療を提供することを目指しています。病状の落ち着いているときの日常の診療は、地域のかかりつけ医がおこない、専門的な治療や定期的な検査は計画策定病院がおこないます。日常の相談などは、まずかかりつけ医にご相談ください。

* 計画策定病院とは、パス（治療計画表）を最初にお渡しする病院です。



もくじ



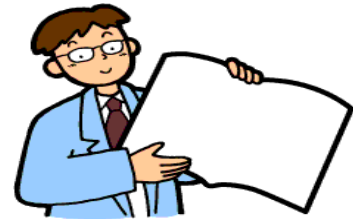
- 肝がんについて
- 肝がんの治療について
- 肝がんの再発について
- 肝硬変について
- 日常生活について
- 肝がん地域連携パス（自己チェックリスト付き）
- 連絡メモ



肝がんについて



肝がんの多くは肝炎ウイルスへの感染がきっかけで起こります。肝炎ウイルスの活動が活発で、ウイルスが完全に排除されずに炎症が慢性化すると、長い時間をかけて肝臓の障害が進み、細胞が次々と壊れていって症状が徐々に進行し、肝硬変、さらには肝がんへと至ります。



☆症状

肝臓は「沈黙の臓器」と言われるように、初期には自覚できる症状はほとんどありません。また、肝がんには特有の症状は少なく、肝炎・肝硬変などによる肝臓の障害としての症状が主なものです。肝がんが進行してからでてくる症状としては

- ・「黄疸」皮膚や白目が黄色くなる
 - ・尿の色が紅茶のように濃くなる
 - ・便秘や下痢のような便通異常
 - ・肝臓の部位に「しこり」や痛みを感じる
 - ・お腹がはったように感じたりする
- などがあります。



肝がんの治療について

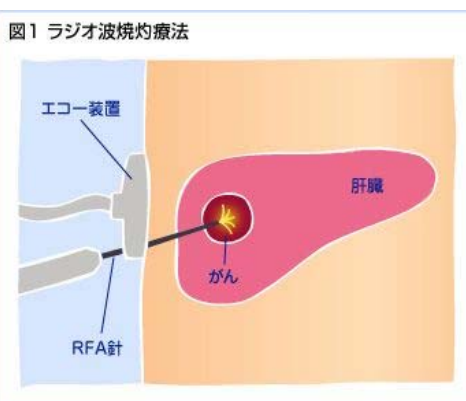


手術療法、局所療法、肝動脈塞栓術の3つが中心になります。それぞれに長所・短所があり、がんの進み具合、肝機能の状況などの条件を十分考慮したうえで選択されます。



☆肝切除

がんとその周囲の肝臓の組織を手術によって取り除く治療です。肝切除をするかどうかは、がんの位置や大きさ、数、広がり、さらに肝機能の条件などによって決められます。肝機能が十分でない場合は、肝切除後に肝臓が機能しなくなる肝不全をおこす危険性があり、手術の適応は限られます。



☆ラジオ波焼灼療法（RFA）

AM ラジオよりもやや長い高周波を用いて、がん組織のみを狙って壊死させる治療法です。通常は、超音波でがんの位置を確認しながら、針状の電極をがんに挿入します。通電すると針の周囲約2~3cmの範囲が高熱になり、がんを死滅させます。

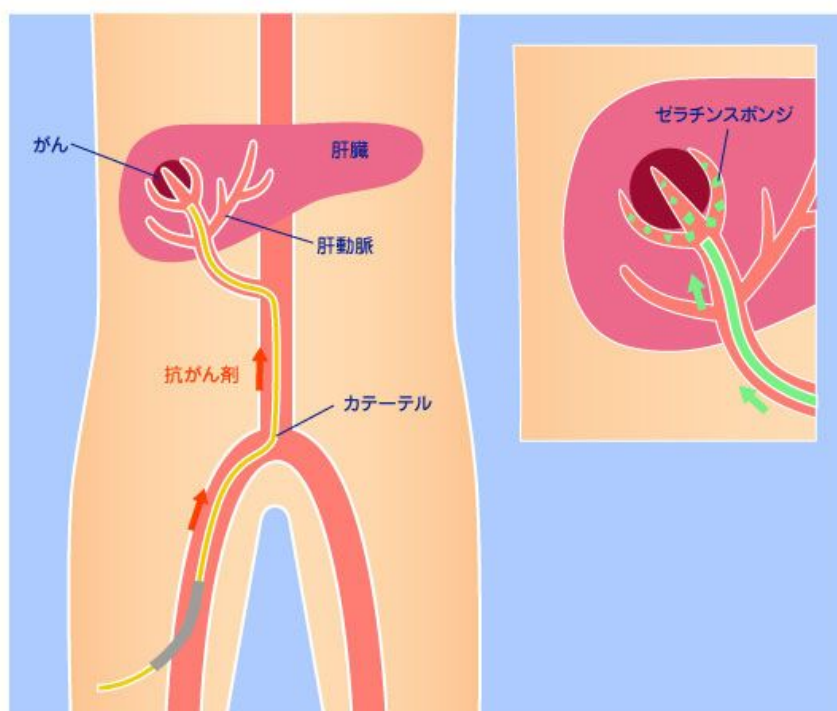
手術に比べ体への負担が少なく、繰り返し行えるのが特徴です。一般的にがんの大きさが3cm以下、数が3個以下と、比較的がんの大きさが小さく、数の少ない方が対象です。

☆肝動脈塞栓術(TAE)・肝動脈化学塞栓術(TACE)

足の付け根の動脈から、がん^{ひょうろう}に酸素や栄養を運んでいる肝臓の動脈にまでカテーテルを進め、その動脈に抗がん剤と塞栓剤を入れ、更にその動脈をふさいで、がんを「兵糧攻め」にする治療です。がんの個数に関係なく治療でき、適応の幅が広いため多くの患者さんに対して行われています。肝切除術やラジオ波焼灼術と併用することもあります。

ただし、黄疸や腹水貯留がみられるなど肝機能が非常に悪い場合は適応にならず、肝機能を改善する治療を優先したあとで行うことになります。

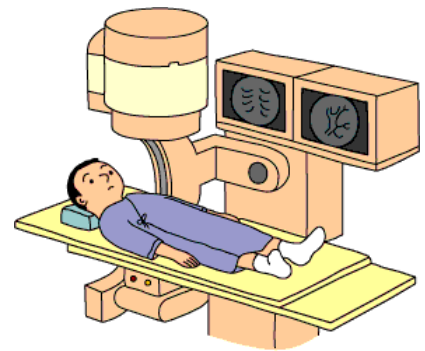
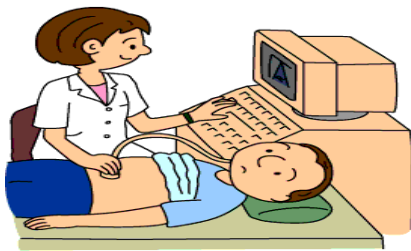
図3 肝動脈化学塞栓療法



肝がんの再発について



肝がんの治療は、その原因である肝炎ウイルスまで根絶するものではありません。ですから、ウイルスが体内に残っていた場合、またウイルスが体内に残っていなくても、すでに慢性肝障害をおこし、傷ついてしまった肝臓は、肝がんを再発することも少なからずあります。したがって、肝がんの治療がいったん完了しても、定期的なチェックが必要です。



また、肝がんは、肝硬変が背景にある場合が多いため、再発しなくても肝硬変で重篤な状態になる場合もあります。

肝硬変について



☆主な症状

筋肉がやせる

脳症

足がむくむ

こむらがえり

出血しやすい

腹水

疲れやすい



肝硬変になり、肝臓の機能が低下すると体に必要なタンパク質であるアルブミンの産生が低下し、栄養状態がわるくなります。

アルブミンが低下すると、むくみや腹水などの合併症がでてきます。

肝臓でアンモニアが解毒されないため、睡眠リズム異常・意識障害を起こす肝性脳症も起こってきます。

また、インスリン等のホルモンの分解も低下し、高インスリン血症となり食後の血糖値が上がるようになります。

肝臓が硬くなることで、門脈の血液が他の細い血管にも流れてしまい、食道静脈瘤が出来ます。その結果、細い血管が破れると大出血をおこします。それ以外にも上記のような様々な症状が出現します。



日常生活について



1. 食事のポイント

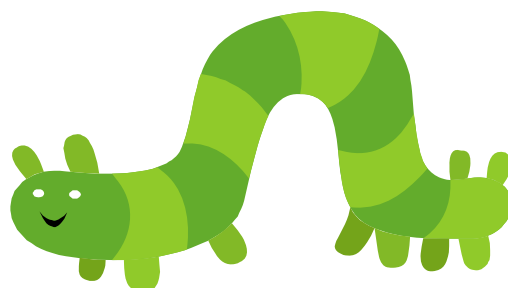
食事はバランスよく

1日3食生活のリズムにあわせて摂りましょう

- 良質なタンパク質をしっかり摂りましょう
- ビタミン、ミネラルをたっぷり摂りましょう
- 適正カロリーを心がけましょう
- 食事は三食規則正しく、夕食は遅くならないようにしましょう
- 添加物や加工食品、インスタント食品をなるべく避けましょう
- アルコールは発がんの可能性を高めます
- 砂糖は控えめにしましょう

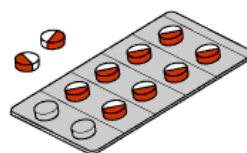


- 脂肪の摂りすぎには注意しましょう！
- 体重コントロールに気をつけ肥満を防ぐ工夫が必要です



2. 日常生活の注意事項

- タバコやアルコールはやめましょう
- 新しい薬、健康食品などを始めるときは担当医師に相談をしましょう
- 睡眠はなるべく1日8時間とりましょう
- 仕事は無理をせず自分のペースでするようにしましょう
- 入浴はぬるめのお湯にしましょう。また、長湯はよくありません
- 旅行は問題ありません
無理のないプランで、薬を忘れずに
特に塩分、カロリーの摂りすぎに注意を！
保険証を携帯しましょう



3. 運動のポイント

いつでも気軽に継続して行える運動がよいでしょう

1日30分くらいを目安に軽く汗をかく程度の歩行運動なら有酸素運動として問題はないでしょう

(運動についても担当医師にご相談の上、始めて下さい)



連絡メモ



A large, empty rectangular area with rounded corners, outlined by a dashed line, intended for writing notes or contact information.